海外先進施設調査報告
～北米・チルドレンズミュージアムを中心に～

2024年7月4日

新江ノ島水族館・なぎさの体験学習館
笠松 舞

調査目的

展示におけるハンズオン体験と
コミュニケーションの効果的な手法を探る。

キーワード

- 体験する意義
- 物作りプログラム
- エデュテインメント
- ハンズオン
- コミュニケーションのあり方
- 大人も子どもも楽しむ
- 特性に対する配慮

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

なぎさの体験学習館の現在の課題

- 生きもののタッチ体験の水槽のあり方
  →「ただ触るだけ」の場所にならないように

- 展示やプログラムでの体験をその場限りにしない
  →その先の興味、活動につなげる工夫

2024年度　展示更新予定

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

チルドレンズミュージアムとは

- 小学校低学年くらいまでの子どもが主な対象

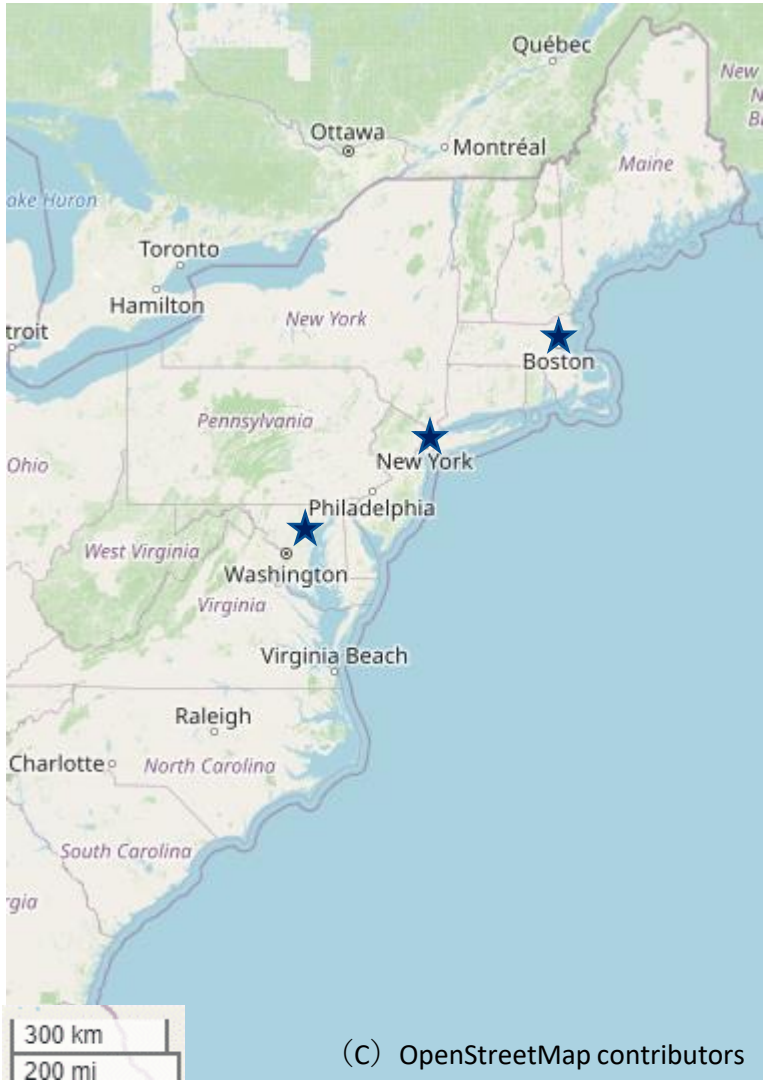
- 展示の主な構成は
「何かになりきる」「水・砂・音などの性質を体感」
「体を動かす」「自由な発想での物づくり」

- 日本にはごくわずか

- 2016年度全国科学博物館協議会主催「海外科学系博物館視察研修」に参加
北米西海岸の博物館をまわり、自由見学でサンノゼ、サンフランシスコのチルドレンズミュージアムを訪問。
子どもたちが感覚的にわかる見せ方、プログラムを見学する。
→展示やプログラムを考えるうえでの視点、ヒントはここにもある！！

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

訪問施設



日程：2024年1月9日(火)～1月18日(木)

＜ボストン＞

チルドレンズミュージアム

水族館　New England Aquarium

科学館　Museum of Science, Boston

現代美術館　Institute of Contemporary Art, Boston

＜ニューヨーク＞

チルドレンズミュージアム(ブルックリン)

チルドレンズミュージアム(マンハッタン)

Children’s Museum of Manhattan

水族館　New York Aquarium

自然史博物館　American Museum of Natural History

＜ボルチモア＞

チルドレンズミュージアム

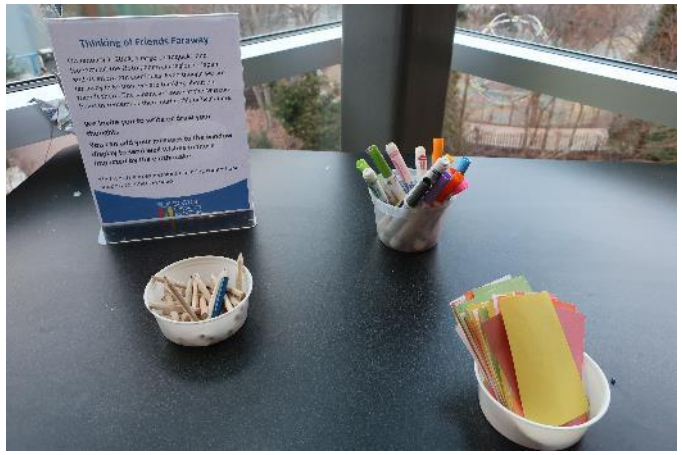
水族館

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

本資料は全科協会員内のみでの取り扱いをお願いします

ボストンチルドレンズミュージアム
Boston Children's Museum

- 展示は“眺めるもの”から“触るもの”という考え方に基づいた展示手法を確立。これまでの業界の常識を変えるきっかけとなった。
- 日本の文化についての展示、異文化の交流。
- プログラムで、子どもの自主性を尊重するために、スタッフがどのように関わるかをトレーニング。

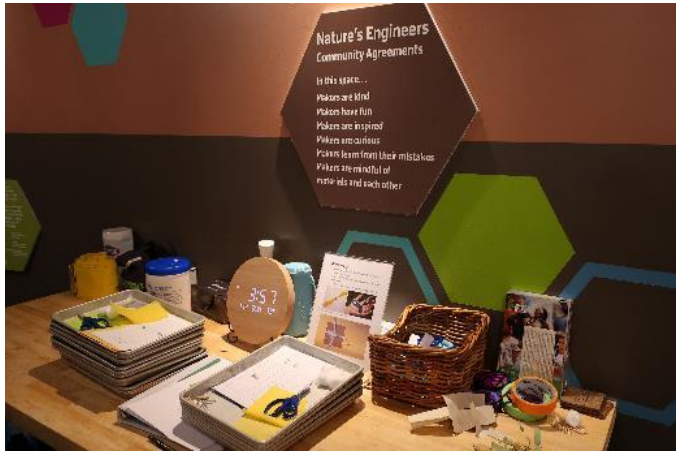


Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

本資料は全科協会員内のみでの取り扱いをお願いします

ブルックリンチルドレンズミュージアム
Brooklyn Children's Museum

- 世界最初のチルドレンズミュージアム(1899年開館)。
- 生きものの展示が多く、生きもの管理を行うスタッフもいる。
- 新しくオープンしたプログラム実施スペースでは、工作の基本を知り、自発的に工夫を重ねるしかけがある。



Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

本資料は全科協会員内のみでの取り扱いをお願いします

ポートディスカバリーチルドレンズミュージアム

Port Discovery Children's Museum

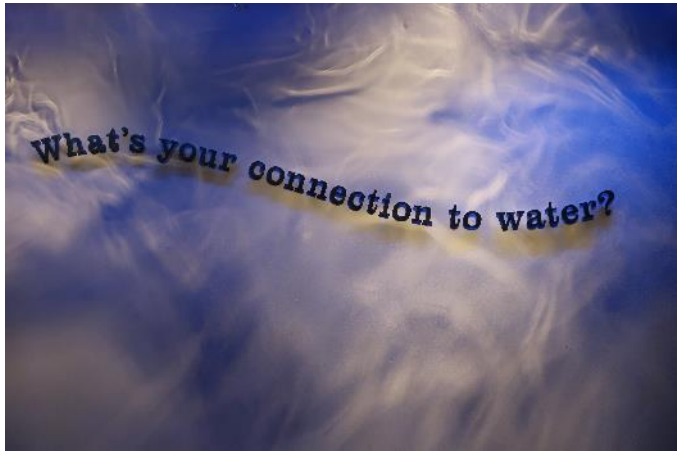
- 地域や州の産業に関連した展示。
- 感覚的に展示意図がわかる、自分達で少し考えればわかる見せ方。
- ワゴンを用いたプログラムを実施。

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

本資料は全科協会員内のみでの取り扱いをお願いします

ナショナル水族館
National Aquarium

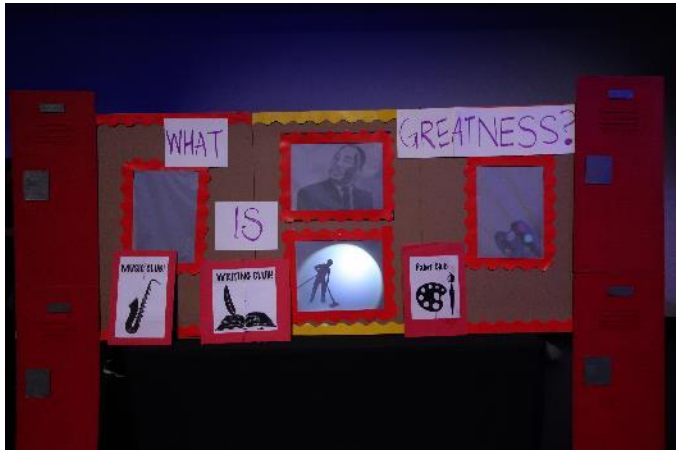
- 生物展示以外に、生物レスキュー等の取り組み等でも知られている。
- タッチ体験を実施。
- デジタルを活用した参加型展示。
- 環境に関連させ、自分にできることを問いかけ、発信ができるしかけがある。



Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

なぎさの体験学習館との共通点

- 季節の行事、伝統、歴史の伝承をテーマにしたプログラムの実施。



- 想像性と創造性を高めるもの作りプログラム。

- 子どもを見守り、助言するタイミングを計る(実は大人も同様)。自発的にすることを尊重。

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

参考にする点

- プログラムでの体験の先に自分たちで発展させられるしかけ。
- タッチ体験、重要な部分ではスタッフとの対話を重視。
- 特性を持つお客さまが楽しめる工夫。
  →静かにするブース、ヘッドギア等の備品貸し出し、特別開館

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

今後に向けて

- 大人も子どもも“楽しんで”、“興味を広げ”、“もっと知りたくなる”しかけ作り(デザイン、実験、競争など)。
  →エデュテインメント

- 当館との共通項が見つかり、展示計画やプログラム作りで大切にすべきポイントを再認識。課題解決に向け反映させる。

Copyright © 2024 ENOSHIMA AQUARIUM All Rights Reserved.

本資料は全科協会員内のみでの取り扱いをお願いします

ありがとうございました

全国科学博物館協議会のみなさま

公益財団法人カメイ社会教育振興財団のみなさま

赤澤宏樹氏(兵庫県立人と自然の博物館)

茶山明美氏、岩本咲氏(Boston Children's Museum)

Ms. Sarah Stulerman(Brooklyn Children's Museum)

Ms. Sonja Cendak、Ms. Hope Myers(Port Discovery Children's Museum)

Ms. Megan Anderson(National Aquarium)　　ほかのみなさま